

「とつとりの未来をつくる」
美術館が生まれます!

作品収集

前編

さまざまなプログラムや体制の整備が進むなか、県内外から特に
関心を集めているのが、鳥取県立美術館ならではのコレクション。
今号・次号では、作品収集にまつわる質問にお答えします。

Q コレクションのどんなところが 注目されているの?

A 国や地域、時代の新旧や規模を問わず、さまざまな作品を収集
しているところがポイント! コレクションの充実を図っています。

継続的な作品収集は、美術館にとって最も重要な使命です。よく知られた
作品を収集することで美術史をかたちづくり、若手作家の作品をコレク
ションに加えることで表現活動を励ましていく。未来の世代に作品の
魅力を手渡していく責任をもって、これからも美術館を育てていきます。



おさき しんいちろう
美術館整備局美術振興監・美術館館長予定者 尾崎 信一郎

もっと詳しく知りたい
方は、鳥取県立美術館
プレサイトをチェック!



レクチャー&トーク「もっと知りたい! 美術館に
おける作品収集と鳥取県立美術館のコレク
ションについて」の開催報告を公開しています。

充実を目指す
コレクションの
4つのビジョン



vision 1
幅広い作品に触れ、
鳥取県の美術を再発見!

国内外の優れた美術作品を広く収集する
ことで、展示や研究の幅を拡充。鳥取県
の美術を相対的にとらえ、そのユニーク
さを実感できる機会を生み出します。



vision 2
鑑賞体験をもっと
刺激的で、豊かなものに!

博物館時代に収集した鳥取県ゆかりの
作品に加え、美術史に名を残す作家の
作品も収集。作品の質感や技巧、迫力
を体感し、理解を深められる場をつくり
ます。



vision 3
若手作家などを応援し、
新しい評価軸を美術館から!

「未来をつくる美術館」として、若手作家
をはじめ、近年目覚ましい活躍を見せる
作家の作品にもアプローチ。新しい美術
の魅力を発見する視点を提示します。



vision 4
多様なコレクションを、
拡充した展示スペースで!

自然光が入る展示室や、繊細な取り扱い
が求められる国宝・重要文化財などを
展示公開できる部屋など、あらゆる作品
に対応できる環境を整えていきます。

後編 では、どのような方針を掲げ、どんな作品を収集していくのかお伝えします!

今号の運び人 passer

舞台は 大山寺 〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山



水や生命などの循環を
テーマに描く大山町在住
アーティスト

絵かき
朝倉弘平さん

宮城県仙台市生まれ。2016
年より鳥取県西伯郡大山
町在住。個展などでの作品
展示をはじめ、アパレル、プロ
ダクトデザイン、マガジン
など、多分野のアートワーク
を手がける。
https://www.asakura
kouhei.com/

閉館に向けて
鳥取各地を
白い箱が旅します



Q どんな活動を しているの?

A ・イラストや絵画を制作しています。この
地域は、大山と日本海が近接していて、山
から川の水が海に灌ぐことで豊かな漁場が
つくられているんですよ。そんな水や多様な生き物の
命の循環を強く実感できる自然環境から、たくさんの
インスピレーションを得て制作に生かしています。

Q 鳥取県立美術館に 期待することは?

A ・良い作品を鑑賞したら、その熱が冷めない
うちに創作できるコーナーが欲しいです。僕
自身もそうですが、心が動いたとぎって同時に
表現したい欲求も生まれるから、お客さんも主役になれる
場所があるといいな。あと、県内の中高生が美術の
専門分野に進むときの進路指導的な役割を担ってほしい
です。他県の美術館では若手への貸しアトリエもあるの
で、これからの若い人への支援に期待します。

朝倉さんへのロングインタビューは
Webメディア「totto」にて公開中!



Passer's Recommend

1 醍醐の手打ちうどん
コシが強く平らなうんで独特の歯切れが癖になります。出汁も美味! 食後の満足感は心地良い眠気を誘います。

2 甲川での沢登り
冷たい水の流れを体で直に受けられます。潜ると魚が泳いでいる姿が観察できて、すごく楽しいです。釣りも最高!

3 大鷹橋
二本松のアトリエに向かう道中に通る橋。深い谷間に架かっていて、スリリングだけど大山が見える景色がお気に入り!

県博 NEWS & TOPICS

01

ミュージアムとの創造的対話04
ラーニング/シェアリング ー共有から未来は開くか?



ミュージアムの現代的な意味を探ることを目的とした
シリーズ展「ミュージアムとの創造的対話」。第4回は
「教育/学び/共有」をテーマに、作品やプロジェクトを
通じて旧来の美術教育にはとまらない「第3の学びの
場」としてのミュージアムの可能性について考察します。

会期 2023年11月26日(日)~12月28日(木)
※12月11日(月)休館
会場 鳥取県立博物館 第1.2特別展示室
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般700円(団体・前売・大学生・70歳以上は500円)
◀ 小沢剛《あなたが誰かを好きにように、誰もが誰かを好き》
2015年/いわきアリオス(撮影:白土亮次)

02

おもと ゆうが
生誕200年 根本幽峨 NEMOTO Yūga
近世鳥取画壇の「黄金時代」最後の華



幕末の鳥取藩絵師 根本幽峨(1824-66)は、江戸の沖
一峨のもとで修業し、狩野派や中国絵画の画法を学習。
その実力を以て商家の出自から藩絵師に登用されました。
本展では幽峨の生誕200年を記念し、激動の時代に
絵筆で人生を切り開いた画家の全貌をご紹介します。

会期 2024年2月10日(土)~3月20日(水・祝)
※月曜(2月12日を除く)、2月13日(火)休館
会場 鳥取県立博物館 第1.2特別展示室
時間 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
料金 一般700円(団体・前売・大学生・70歳以上は500円)
◀ 根本幽峨《内膳鑑図》
幕末/当館蔵(石谷コレクション)

朝鑑賞 の ススメ

さまざまな学校独自の取り組みとして実施
されている、朝の短時間を使った「朝読書」
「朝ドリル」。新たな活動として、美術作品の
鑑賞を行う「朝鑑賞」はいかがでしょう?

詳細やサポートの
ご依頼は県立博物館
美術振興課まで

Pass me!

パスミー!

県民とつくる
鳥取県立美術館ができるまでを伝える現状報告マガジン

09



いよいよ
美術館の姿が
見えてきました!

次の世代へと届けたいコレクションの収集も着々と進行中です!

HISTORY OF MUSEUM

2023 (R5)

3/5-21

カウントダウンイベント第1・2弾を開催
イベントサポーターも大活躍!

閉館まで残り2年となった3月に、カウントダウンイベントを開催しました。第1弾では担当者による座談会のほか、美術に造詣の深い山田五郎さんを迎えたトークセッションを実施。和やかな雰囲気の中、美術館への関心をさらに深められる機会となりました。

続く第2弾は、ロゴ・シンボルマークの発表にあわせ、美術館の取り組みとデザインの関わりを語るフォーラムを開催。両日ともに、イベントサポーターの方々準備や運営で協力いただきました。

イベントの内容は鳥取県立美術館
ウェブサイトにて公開!



3/16

美術館をみんなで作るための
オープンミーティングを実施

倉吉市での開催に続き、鳥取市でも「子どもと美術館」をテーマに意見交換会を実施。小さな子どもをもつ方々にたくさんご参加いただき、乳幼児にも役立つ美術館の活動について議論を繰り広げました。



小さな子ども連れのお母さん
もゆっくり作品を鑑賞



小さな子どもも立ち会った
ミーティングの様子

3/20

『Pass me!』8号目発行!



Collection Recommend

絵に行きたくてもやけっぱい人に
おすすめの名作

また かんじ
前田寛治《セイヌ河畔の春》
1925年/油彩・キャンバス 45.5×61.0cm



美術振興課長
三浦努 選

我慢していた海外旅行も少しずつ行きやすくなってきましたね。旅に出たいけれど、美術館開館に向けた準備が忙しくてそれどころじゃない……! そんなとき私は、この作品を見てフランスに行ったつもりになっています(それも悲しい……)。それくらい、旅情を刺激する作品なのです。



解説
鳥取県東伯郡中北条村(現・北条町)国坂に生まれた前田は、東京美術学校卒業後、1920年に郷里で設立された「砂丘社」の芸術文化運動にも参加。1923年に渡仏し、クールベの写実主義などに傾倒した。本作は留学中に多く描いた風景画のうち的一点。

4/23

全5種類の「対話型鑑賞のファシリテーター養成プログラム」をスタート!

対話型鑑賞のファシリテーター養成研修を体系立てて進めています。令和5、6年度の準備期間に、専門家を招いた講座や演習など全5種類の研修を実施。受講終了後は、小学生を対象にした対話型鑑賞の場で活躍いただけます。

年間計画などの
詳細はこちら



ファシリテーター登録のお申込みは県立博物館美術振興課まで



5/8

新型コロナウイルスが
5類に移行

イベントや館外での普及事業も、ますます精力的に展開しています!



5/28 アートセミナー
「鑑賞品を読み解く」
(工芸編)



7/7 奥大山江府学園での
「コレクション宅配便」

5/14

鳥取県立美術館
建築上棟記念イベントを開催!

基本構造の完成をお祝いする上棟イベントを開催。餅まきのほか、建築ツアーや建設中の県民ギャラリーの壁や床にお絵描きするワークショップなどを行い、4,000人もの方にご来場いただきました!

イベントレポートを鳥取県立美術館
ウェブサイトにて公開!



テラスからの餅まきの様子

まきたかおりさん(とっとり県美応援団)
お手伝いした「落書きばんざい」ブースは、朝からたくさん親子連れで大賑わい。未来の画家画伯が思い思いに描く落書きはどれもかわいく、力強く、見ているこちらが圧倒されるほど。工事中とは思えないような、バツと華やいだ空間が生まれました。みんなで作る美術館とはこのこと! オープン前から地元の方々に愛されているこの美術館、今からオープンが楽しみです。



WSサポーター

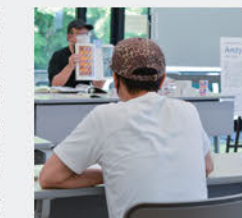
6/17

美術館に関するレクチャーや
ワークショップを行う
「学芸員キャラバン」を継続展開中!

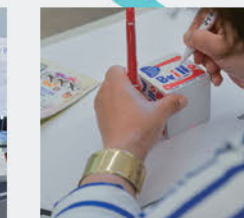
地域のお祭りや依頼のあった場所に出張して美術館をPRするキャラバンを、2022年から各地で行っています。この日は、館長予定者に決定した尾崎信一郎さんによるレクチャーの後、アンディ・ウォーホルの《Brillo Box》をオマージュしたオリジナルの箱をつくるワークショップを開催。ウォーホルの制作を追体験しながら、作品の魅力に触れていただきました。

アンディ・ウォーホル《Brillo Box》とは

1964年の発表当時、「芸術とは何か」を世界に問いかけた、現代アートにおける記念碑的な作品のひとつです。テクニックを駆使しながらオリジナリティをもつ「一点もの」を制作する旧来の芸術作品のあり方に対して、ウォーホルは、大量生産されている商品のパッケージデザインを再現し、「シルクスクリーン」という技法によって機械的に複数制作したものを発表。衝撃的な作品は、後世のアーティストたちにも多大な影響を与えました。本作は、2025年の鳥取県立美術館開館記念展でお披露目する予定です。



尾崎さんによる
レクチャーの様子



《Brillo Box》のミニチュア
を制作する参加者

柿田実桜さん(小学4年生)

自分だけの《Brillo Box》がつくれて、よかったです。自分がつくったものひとつのときと、みんながつくった《Brillo Box》を積み上げたものでは、見方や感じ方などがぜんぜん違いました。



WS参加者

7/12~

美術館関連グッズ&カフェ・レストランの
事業方針説明会をスタート

美術館を訪れる楽しみのひとつである、ショップとカフェ。グッズ開発や、カフェ運営に興味のあるみなさんに向けた事業方針の説明会を倉吉から順次スタートしました。

7/22

新プロジェクト「長ーい祭りの準備プロジェクト」の
プレイベント「屋台、山を越える。」を開催!

宮原翔太郎さんとともに美術館ができるまでのスペシャルプログラムを進めています。美術館開館にあわせ、たくさんの方が参加できる手づくりの「バレード」を計画中。そのプレイベント「屋台、山を越える。」では、プロジェクトのシンボルとなる大型屋台を人力で曳いて、吉岡温泉から浜村温泉まで運搬! たくさん汗をかく時間をともにしながら、結束を強めました。



「屋台、山を越える。」の様子

WS講師



宮原翔太郎さん
(長ーい祭りの準備プロジェクトアーティストディレクター)
鳥取県立美術館開館に向けて汗を流し、身体でぶつかって、いような企画を催していきます。頼りになるのは、フィジカルだけ。必死で動かした肉体がなにかを教えてくれるはず。ぜひ、ともに身体を動かしましょう。



2022年3月から本着工した鳥取県立美術館。建物が少しずつ出来上がっていく様子を、さまざまな角度から観測してみました。

2022.07

基礎部分の工事に着手。鉄骨・型枠・コンクリート工を経て、埋め戻します。



2022.08

地上躯体の工事を開始。建物を支える床の鉄筋の施工などを行いました。



2022.09

柱・壁の配筋を開始。米子工業高校の学生に向けた見学会も実施しました。



2022.10

1階の壁が姿を見せはじめました。並行して2階の床の施工も行っていきます。



2022.11

ルーバーや造作物に使う木材の準備も進行中。倉吉幼稚園の見学会も実施しました。



2022.12

2階の壁が完成。3階の施工に着手し、建物のスケール感が見えてきました。



2023.01

鉄骨梁を架け、1階から2階床のコンクリート打設が完了。雪のなか施工が続きます。



2023.02

いよいよ大屋根の施工に着手。1階の窓も取り付け、内装工事がはじまりました。



引き続き、**県民のみなさんとの対話、協働の場**をつくっていきます!

Pass me!10につづく